

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101819		
法人名	医療法人 慈生会		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	徳島市津田西町一丁目9番5号		
自己評価作成日	令和2年2月3日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者お一人ひとりが持っている可能性を活かしながら、その人らしく心豊かに安定感のある生活ができるよう努めている。また声を出すこと(俳句を読んだり、歌をうたう、体操をしながら数を数える)等を行うことによって活力に繋げる取り組みをしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年3月12日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、高台に位置し、自然豊かな環境の中にある。近隣には神社仏閣があり、日ごろの散歩や季節行事などの機会に、近隣住民等と交流する場となっている。“ゆっくり、一緒に、楽しみながら”という、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げ、利用者一人ひとりの生活リズムにあわせた支援に取り組んでいる。近隣に、同一法人の運営する医療機関があり、定期的な往診や看護師の訪問、緊急時の対応など、連携体制を整えている。また、防災訓練や季節ごとの行事なども連携・協力して開催し、利用者や家族等、地域住民の交流の機会を設けている。全職員が、介護福祉士の資格を有し、事業所や法人内での研修や委員会活動、外部研修等に積極的に参加するなど、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、一緒に、楽しみながら」の理念を掲げ事業所内に掲示し常に立ち返れるようにしている。住み慣れた地域と共にその人らしい生活ができるような環境づくりに努めている。	事業所では、地域密着型サービスの意義や役割を踏まえた理念を掲げている。家庭的な環境のなかで、利用者一人ひとりの意向などに合わせた支援を心がけている。職員は、本人本位の支援となるよう、理念を共有しつつ、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物、また外食等に出かけ、地域の方と挨拶を交わしたり、地域の様子を感じたりしている。法人内でボランティアの方の訪問があるときに出向き、交流している。	事業所では、日ごろから、利用者とともに近隣の散歩等に出かけた際、地域住民と交流を図っている。毎月、化粧やネイルのボランティアの来訪や託児所の子どもたちの来訪などを受け入れて、地域との交流の機会を設けている。また、職員は、地域の炊き出し訓練に参加するなど、地域の一員として協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への日常生活支援についての理解を得られるよう、運営推進会議等の場を設けて地域の人たちに伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月間の取り組みなど写真を交えて報告し、意見や質問をもらうなど話し合っている。また利用者様にも参加して頂き率直なお気持ちを伝えて頂いている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター、協力医療機関などの出席を得ている。会議では、事業所の活動状況等を報告しつつ、地域の情報を得るなどしているが、事業所の課題等について、協議・検討を行うまでには至っていない。	引き続き、事業報告や地域の情報交換等を行うとともに、事業所の抱える議題や具体的な課題・目標等について、協議・検討し、サービスの質の向上に活かすことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月利用状況表等の報告を窓口を持参し、直接担当者と話を行っている。	職員は、毎月、市の担当窓口を訪問し、事業所の取り組みや実績を報告している。担当課以外の窓口にも出向き、制度に関する相談等を行う等、協働関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のない支援に向けて委員会で学び、どのような行為が拘束にあたるのかを職員間で周知している。拘束なく安全に生活を送れるよう環境を整え支援している。	事業所では、身体拘束の廃止に向けて、委員会を設置している。定期的に、身体拘束に関する研修会を開催し、拘束をしない支援に向けて取り組んでいる。利用者の行動や思いについて検討し、本人本位の支援に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や法人、事業所内での勉強会で虐待防止について学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方がおられ必要性など理解しやすい。また研修に参加できるような体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、利用者様や家族様に納得していただき、不安や疑問なく入居していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者様や家族様が職員に対して何でも話せるような雰囲気づくりを心がけている。ご意見や要望等はミーティングや申し送り等で運営に反映させている。	事業所では、日ごろの利用者とのかかわりや入居者同士の会話の中から、意見や要望等をききとっている。家族等の来訪時には、意見等を言いやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見等について、職員間で話しあい、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送り時や随時、意見、疑問点、改善点を考え、ミーティング時等に話し合い運営に反映させている	管理者は、毎日の申し送りや月2回のミーティングの際に、職員の意見や提案などをききとっている。出された意見等は、運営面に反映している。同一法人の運営する託児所の設置など、働きやすい職場づくりに向けた環境整備にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	フレックスタイム制を取り入れ働きやすい環境づくりにつとめている。またやりがいを持てるように研修や資格確保に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の案内があれば回覧し、希望者には受講できるように勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や勉強会に参加し、情報や意見交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスをご利用いただく前にご本人に面接しお話を傾聴することにより要望や不安を知ることができ理解を示しながらご本人の不安軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	紹介先やケアマネの情報を活用し家族様と話し合い不安や困りごとをお聞きし説明や助言を行いながら信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で本人様と家族様が何を必要とされているか理解に努めより良いサービスが提供できるように情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様には常に尊厳の気持ちで接しそれぞれの役割を担いながら共に支え合える関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子をお伝えし情報の共有努めている。時には家族様に相談しながらお互いが支え合っていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や知人や友人の来訪時には居室や共有空間でゆっくりと会話を楽しむことが出来るよう支援している。	事業所では、利用者や家族、関係者などからききとり、本人がこれまで培ってきた関係性の把握に努めている。友人・知人の来訪を快く受け入れたり、法人の行事に参加したりして、交流が継続できるよう支援している。家族等の協力を得て、自宅や行きつけの店舗に行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が話しやすい環境づくりに努め共有空間の席にも配慮を行っている。職員も間に入りコミュニケーションを図りながらお一人おひとりの関りを見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により、やむを得ず胎教になられた場合でも、定期的にお見舞いに伺ったり、本人様、家族様の不安ごとやそうだんをお聞きしたりして支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様や家族様の希望をお聞きしたりしながら日頃の関りを大切にする中でお一人ひとりの思いや暮らし方の望みを把握することに努めている。また職員間での情報共有はお一人ひとり持ちの変化を知ることができその都度検討していけるよう努めている。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりの中で、会話や表情、態度などから、思いや意向を把握するよう努めている。意思を表出しやすい言葉かけや対応方法などについて、職員間で検討し、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人様や家族様から情報収集を行うと共に、ケアマネージャーからの情報をもとに把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の心身状況や日常生活の様子を記録している。職員全員がお一人ひとりの生活パターンの把握もできている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様の面会時には状況報告することにより意見や要望を聞きそれをもとに介護計画に組み入れ本人様がより良い暮らしができるように作成している。	事業所では、本人や家族、関係機関との協議により介護計画書を作成している。特に、利用者のできることや得意なことに着目しつつ、現状に即した計画作成に取り組んでいる。意思の表出が困難な場合は、本人本位に検討し、達成可能な計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態の変化に気づき記録し、朝夕の申し送り、ミーティング時に職員間で情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人と家族様のニーズを理解しながら受診の付き添いや買い物など必要な支援は柔軟に対応し、お一人ひとりの満足に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染み親しんできた地域との交流を行い、お世話になっている民生委員や地域の人たちに支援して頂き、安心して生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族様が希望するかかりつけ医の受診を支援している。	事業所では、家族等の協力を得て、利用者一人ひとりの希望にそったかかりつけ医の受診を支援している。法人が運営する病院が協力医療機関であり、定期的な往診や看護師の訪問がある。また、緊急時には、24時間対応可能な連携体制を整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制があり、週1回は協力医療機関の看護職員が来て入居者様の健康確認を行っている。体調不良者に対してはすぐに病院と連絡を取り対応し、緊急時の協力体制もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行い本人様・家族様と相談をしながら、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応及び看取りに関する指針を作成し家族様へ説明、同意をいただき、協力医療機関と連携し取り組んでいる。	事業所では、入居時の段階で、終末期における事業所の方針について、利用者や家族等に説明している。心身の状況の変化に応じて、家族等の意向を踏まえつつ、関係者間で方針の共有化を図っている。重度化により、入院した利用者の面会に行くなど、関係の継続にも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医との連携で緊急時の連絡や応急の対応が常にできる体制づくりに取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、実際に利用者様に参加頂いて消防訓練を行っている。病院との合同訓練も行い、安全な避難誘導ができるよう備えている。	年2回、消防署等の協力を得て、防災訓練を実施している。同一法人が運営する協力医療機関とも連携し、避難訓練や消火訓練などに取り組んでいる。また、職員は、地域の炊き出し訓練等へ参加するなど、協力体制を築くよう努めているが、地域住民等の参加を得るまでには至っていない。	今後は、引き続き、地域の炊き出し訓練等への参加などにより、地域との協力体制の整備に努めるとともに、地元消防団や婦人会、近隣住民等の参加・協力を得て、より充実した支援体制の整備に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員業務理念を掲示し、利用者様一人ひとりの尊厳を維持し、言葉遣いや態度に注意し職員同士でも気づいた時は声を掛け合いながら支援している。	職員は、利用者一人ひとりを尊重し、日ごろの言葉遣いや声かけに配慮している。職員同士で対応を確認しつつ、支援に取り組んでいる。法人内外で開催される、プライバシーの確保等に関する勉強会にも、積極的に参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思の尊重を常に心がけている。また本人が意思決定しやすい様に働きかけ、表情の変化等にも気づきを持ち支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が思いのままにイエス、ノーを言えるような環境づくり、職員の声掛け方などに気を付けている。お一人ひとりのペースで安心、安全、快適に生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本衣類等の選択は利用様に行って頂き着用していただいている。定期的に美容師の方が訪問している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の厨房から運んできた食事を一人ひとりの形態に加工し盛り付け提供している。毎食利用者様がホワイトボードにメニューを書き写しリビングに掲示している。片付けの際にはタッパーやトレイを拭いて下さるのが日課となっている。	事業所では、ご飯や味噌汁を調理し、利用者一人ひとりの心身の状況にあわせて食事を提供している。遠足や花見の際はお弁当を持参したり、行事の際にたこ焼きや回転寿司に出かけたりして、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に対する思考や要望を把握しながらお一人ひとりにあった食事形態や利用者様のその日の状態に合わせた支援を行っている。また1日分の量、バランス、水分量の数値も記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。利用者様の状態に応じて介助が必要な人には支援を行っている。協力医による訪問歯科もやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表をもとに利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、可能な限りトイレで行うように支援している。	事業所では、利用者が、できる限りトイレで排泄することができるよう支援している。一人ひとりの排泄パターンやサインを把握しつつ取り組んでいる。誘導の際は、さりげない声かけなど、尊厳を傷つけることのないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表をもとに排便状態を把握している。水分・食事量の摂取量に注意し運動や腹部マッサージなどを行っている。便秘が続く場合は主治医に相談するなどして支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は午前中に行っているが、その時ばかりとは限らない。お湯の好み等一人ひとりに応じた対応で心身共にリフレッシュしていただけるよう支援している。	事業所では、週2～3回は入浴することができるよう支援している。利用者の思いを尊重し、羞恥心や不安感を感じることのないよう配慮している。入浴拒否等がある場合は、本人本位に検討し、無理強いしないよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、部屋の明るさ、寝具等を整え、利用者様の生活リズムが崩れないように配慮した支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルを作り薬の内容が確認できるようにし、変更時には職員間で周知行う。飲み忘れや誤薬がない様に朝昼夕と色分けし配薬表を使用。服用時は名前、日付を声に出している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活場面で今までできてきたことを楽しみながら個々の状況に合わせた役割を担って頂いている。達成感を感じたり、自信につなげることができるよう支援をおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出の機会を持てるよう、散歩や季節の花を見に行く、近くのコンビニやスーパーに行くなどしている。また母の日などは利用者様からのリクエストで回転ずしなどに出かけている。個々で家族様と外出されることもあり、服薬等の準備などの支援をおこなっている。	事業所では、利用者一人ひとりの体調やできること、希望にあわせて外出支援に取り組んでいる。季節に応じて、花見やお祭り、外食などに出かけることもある。車椅子等を活用し、屋外でも楽しく過ごせるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームほほえみ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心されたり、買い物を楽しめたり、利用者お一人ひとりの希望や能力に応じた支援を行い、家族様とは情報共有を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の購入や携帯電話や子機を使用し自室でゆっくり話せるよう支援している。また子ども様やお孫様の写真入りはがきなどご本人の希望にて居室に貼りいつでも見れるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では常に安心と安全と清潔を守り、いつでも好きな時に利用できるよう、解放感にも心がけている。壁飾りは利用者様と共に作成し季節感を味わえるようにしている。	共用空間は、事業所の中心に位置し、利用者が集まりやすいようにしている。車椅子等が通りやすいよう、導線にも配慮している。壁面には、利用者とともに作成した作品等を飾り、季節感を感じることができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではパズルをしたりTVを観たりお一人ひとりがリラックスして好きなことが出来る雰囲気づくりをしている。共有空間から少し離れたところにベンチを置いてあり話など楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人と家族様が相談され使い慣れたものや馴染みのある物を持ち込んで頂いている。また家具の配置やコード等安全面に配慮している。	居室には、家具やテレビ、化粧品、着物一式など、利用者の馴染みのあるものを持ち込んでもらっている。季節に応じて、こたつ等を設置することもある。家族の写真等を飾るなど、本人が居心地よく過ごすことができるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるよう居室等はお一人ひとりの状態に合わせた家具やベッドの高さにし、着替え等も自分でとれるようにしている。またトイレなどはさりげなく場所が分かるように工夫している。		